

令和 7 年度			教育指導の重点及び学校経営計画			
			学校番号	33	学校名	武義高等学校
社会的役割等 (スクール・ミッション)	生徒の個性や能力の伸長、知識や技能の定着に取り組む高校として 校訓「うまず・おくせず・たくましく」のもと、自走力を高める教育活動を通して 調和のとれた人格の形成と、地域社会の発展に寄与できる人材の育成を目指す学校					
学校教育目標 (教育方針)	教科の学習や特別教育活動を通して、調和のとれた人格を形成することにより、高い志をもち将来社会の発展に寄与できるリーダーの育成を目指す。					
3 つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	・ 夢や希望に向けて自ら学習や部活動に励む生徒 ・ 自分で正しい判断や行動ができる生徒 ・ 地域に愛着を持ち地域の発展に貢献できる生徒				
	生徒をどう 育てるか 【C P】	・ 知識や技能の定着と、学ぶ意欲、学ぶ習慣の育成 ・ 一人一人の個性や能力の伸長と自走性の育成 ・ ふるさと教育やSDG s 教育の実践を通し、課題を解決する力の育成				
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	・ 自分で目標を定め、自走性を発揮し、勉強や部活動に意欲的に取り組む生徒 ・ 自他の違いを認め合い、心の優しさと強さを持った生徒 ・ ふるさとを愛し、地域の様々な課題解決に積極的に参画する生徒				
学校の抱える課題	自ら考え行動できる自信と勇気を持つ自走性に富んだ生徒たちを育てていくための、体制と具体的な活動の構築と実践。					
教育指導の重点	領域・分野	今 年 度 の 具 体 的 な 重 点 目 標				
	学校経営	地域教育力で育つ生徒の自走性養成をスローガンに、多様な進学方法と進路選択ができる学校をつくる。				
	学習指導	主体的な学習態度を育成する、質の高い授業、頑張れる授業、わかる授業を提供する。				
	進路指導	生徒理解に努め、生徒の健全な発達を図るとともに、高い志を併せ持つ進路希望の実現を達成する。				
	特別活動	生徒の活力を引き出し発揮できる場面を大切にする。地域社会に貢献する教育を推進し、地域教育力を生かした活動の充実を図る。				

年 度 目 標				年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	生徒一人一人が活躍する場面を創出し、お互いの良さを認め合う機会を多く持つ。	施策Ⅰ-1	・学校関係者評価	授業を核にした学校生活の中で、生徒が自分自身やクラスメイトの良さを認め合える環境を整えることができた。 外部との連携を積極的に行うことができた。 またその連携については持続可能なものであることを意識して運営できている。 情報発信の在り方を見直し、対象者に合わせて複数の情報発信方法を改善した。 学習成果発表会を行い、校内での連携と外部機関との連携の調整を確かなものにしていくための基盤づくりに努めた。	A	全校生徒の9割以上が「充実した学校生活を送れている」と学校評価アンケートに肯定的な回答している。普通科とビジネス情報科を持つ学校という特徴を活かしつつ学校組織を再構築し、肯定的な回答のうちの「ややあてはまる」が「よくあてはまる」という回答となるよう、学校全体が好循環するより一層の活力を生み出すことが課題である。そのために、様々な教育活動の実践の後には振り返りを行い、改善点の明確化が不可欠である。	
	地域、保護者、学校が連携・協働し、地域の教育力を取り入れる。	施策Ⅰ-3	・アンケート、学校運営協議会等での評価 ・すぐる発信数やホームページ等の更新回数				
	情報発信を通して、地域と保護者の理解を求めると共に、武義高に対する要望に応える。	施策Ⅰ-4					
	普通科とビジネス情報科の探究的な活動を連携させる組織を構築し、互いに高め合える機会を創出する。	施策Ⅱ-13					
学習指導	高校生のための学びの基礎診断等から学習効果・課題を定期的に分析し、指導方法や評価方法の改善をする。	施策Ⅱ-8	・授業アンケート結果	スタディサポートや、授業アンケートを実施し、生徒の学習状況の把握ができた。 丁寧な学習指導を全職員が実践し、個々に応じた仲長を図ることができた。また職員による授業参観も積極的にを行い、教科担任へのフィードバックも意識して行うよう準備できた。 美濃市役所や産業界との連携の頻度が増えている。また関わっていただいた地域の方も増えている。	B	地域と連携したキャリア教育については基盤を構築することができた。より良いものにするために、改善と継続に努めたい。生徒の学習態度について自主的な学習習慣が身につけていない生徒の割合が増えてきているが、対策が講じられていないことが課題である。生徒各自の目標を達成させるために、3年間を通しての指導を見直し、小テストの実施、課題の出し方等、具体的な学習指導のあり方について整理統合する必要がある。	
	年次や科ごとに学習課題を明確に持たせる指導、目標を達成するまで反復する学習を徹底する。	施策Ⅱ-8	・外部模擬試験等の成績結果と経年比較				
	ICT教育を取り入れた授業改善を推進し、主体的・対話的な学習態度を育成する。	施策Ⅱ-9					
	地域の産業界や関係機関と連携したキャリア教育を促進する。	施策Ⅱ-13					
進路指導	週1回の定期的な生徒情報交換会を開催し、常に生徒の状況を迅速に把握し個別最適な対応を取る。	施策Ⅲ-19	・不登校や問題を抱えた生徒の状況把握と対応、心のアンケート等	各年次において週1回の年次会、教頭と年次主任による週1回の連絡会を行うとともに、必要に応じて即時にケース会議を開催し、職員が連携し問題を抱える生徒に対する個別最適な対応や指導を実践した。 教科補習、小論文指導、面接指導など職員それぞれが多くの時間を取り生徒個々に応じたきめ細やかな進路指導を行った。	B	生徒の状況の把握については、連携をきめ細やかに行い、適切な支援ができた。この体制を強化し継続したい。また生徒の多様化に伴い、進路指導も多様化し多岐に及んでいる。生徒全体の意欲の醸成と合わせて個々に応じての手厚い指導を行うために、学校としての目標達成のための方法を再構築することと、補習を十分行う、サテラインなどの外部教材の活用をするなどの課題がある。成果をあげるために指導者である職員の研修やスキルアップを実施する必要がある。	B
	国際社会やグローバル社会で活躍する意識を持たせ、努力を継続させる。	施策Ⅱ-11	・行事実施後の生徒アンケート、外部評価				
	進路選択の多様化に対応した進路指導を通して、学習指導、補習指導等の充実を図る。	施策Ⅳ-23	・アンケート、学校運営協議会等での評価				
	外部講師やサテライン、生成AIによる添削指導も取り入れながら、職員が研修を深め、より効果的な進路指導を実施する。	施策Ⅳ-26					
特別活動	「地域課題の探究」を通して、地域の魅力を知り、地域課題を発見し、生徒たちが主体的に解決策を模索できるように支援する。	施策Ⅱ-8	・実施後の生徒アンケート、外部の方対象アンケート、学校運営協議会等での評価	ビジネス情報科においては教科担任が、普通科においては副担任・担任が生徒たちの主体的な探究活動を支援した。外部との連携や校外の事業への参加については、職員の積極的なアドバイスや支援を行った。 生徒会活動において昨年度よりも参加人数が増え、活力が生まれ成果が上がった。全校生徒の高い意識をベースに、学校全体の美化環境が保たれている。また生徒の交通事故件数が減り、全体的に安全な生活ができています。	A	「生徒の自走性の醸成」という明確な目標のもと、特別活動における生徒への支援は求心力を持つものとなったことは成果としてあげられる。身についた生徒たちの主体性を認め、自走性を養成できたことが成果である。部活動指導や地域との連携は、一層のきめ細やかさが必要とされるため、職員の過負担とならないようにしつつ、高みを目指すことが課題である。健康で安全な学校生活のための環境整備や、各方面との連携についても同様で、組織を整え効率化も図りながら実践していくことを課題とする。	
	生徒を地域の各種行事へ積極的に参加させ、地域活性化に貢献するとともに、地域教育力を取り入れ生徒の自走性を高める。	施策Ⅰ-4	・生徒の卒業時アンケート				
	「一人ひとりの文武両道」が達成できるよう、より高い目標を持った部活動や生徒会活動を推進する。	施策Ⅳ-24					
	健康で安全な生活について意識し、美化活動やリサイクル活動、防災活動を積極的に行う。	施策Ⅲ-17					

来年度に向けての改善方策等 ①校内の経営のために組織の見直しと再編成を行う。報告、連絡、相談を欠かさずに行い、組織の円滑な働きを作り出す。教育活動それぞれにおいて目標を明確にし、さまざまな教育活動の実践後には必ず振り返り、改善点を明確にして次の実践に活かしていく。 ②武義高生の「良さ」を大切に地域と連携し、普通科とビジネス情報科が併設されている特徴を伸長させる。 ③生徒の学習習慣の把握を年度当初に行い、分析の上、それぞれの年次に対応させた3年間から1年間の見直しをもった学習指導を行う。教務部と進路指導部が中心となって牽引していく。 ④自走性を身につけようとする生徒たちのさまざまな活動がより活気を帯びたものになるように、教職員も一層協働し自走性を高める。分掌組織の強化と、各教科各職員における授業改善を中心に行う。 ⑤地域と連携する教育活動や情報発信、広報活動を改善しながらより積極的に行う。	学校関係者評価 ①生徒たちが安心して通うことができる学校である。職員の皆さんが、いつも生徒たちとしっかりと向き合った指導ができている点が評価できる。 ②今後も伝統である「文武両道」を今まで以上に大切にして、生徒たちが学力を付けられるよう、諸活動に励み達成感を得られるよう、活気ある学校にしていって貰いたい。 ③学習成果発表会の様子からも、学んでいる生徒たちの探究力や行動力に期待ができる。課題に積極的に関わった者は「当事者」としての探究力がさらに発揮できるはずである。学校の諸課題についても、「当事者」として生徒自身に関わらせていくと良い。
--	---